

a 子ども

新しい
こどもの
パートナー

スクールソーシャルワーカー導入

子どもをめぐる困難さ

子どもをめぐるのは、◆いじめ・非行や不登校◆低所得や児童虐待など養育困難家庭への対応◆心身にハンディがある子どもへの支援など社会福祉によって解決される困難さがあります。

しかし、教師は、教科指導が専門であり、スクールカウンセラーは、心の内部を取り扱うため、社会福祉は専門外であり、社会福祉の専門性を持つ「スクールソーシャルワーカー(SSW)」が求められてきました。

文京区の実践

22年度から子どもを支援するSSWを導入します。SSW導入により、今まで以上に、子どもの声に耳を傾け、子どもが自分の人生の主役となるよう見守っていきます。



b 高齢者・障害者

文京区社会福祉協議会が後見人になります！

誰が代弁者になるのか？

認知症になったり、知的障害がある場合、自分の意思を実現することが困難になります。

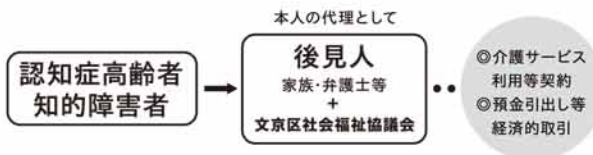
本人の代わりとなって契約などを行う、「後見人」を選任する成年後見制度がありますが、誰が後見人になるかが課題でした。多くは、家族や弁護士などの専門職の方がなってきました。

後見人を選ぶときのポイント

- 家族の場合** 手続きや帳簿記入等煩雑で負担が大きい。そもそも身寄りがないと選びようがない。
- 専門職の場合** 報酬が必要になるなど経済的な負担が重い。
- 共通の問題** 法人ではなく個人だと継続性が難しい。

文京区の実践

22年度からは、文京区社会福祉協議会も「法人後見人」となり、低所得者や家族など身寄りがない方の思いを実現していきます。



発行＝文京区議会議員 新風会 前田くにひろ（無所属）
前田くにひろと文京を楽しむ会
〒113-0023 向丘2-13-14 電話&FAX＝03-3818-3191
E-mail＝info@maedakunihiro.com



c 自殺対策

大切な
いのちを
まもる

ゲートキーパー養成

ゲートキーパーとは？

自殺で亡くなった人の7割は、生前に救助希求のサインを発していたとの調査結果があります。そうしたサインに気づき、必要な支援に繋ぐ役目を果たします人を「ゲートキーパー(門番)」といいます。まわりの人が、心と命の限界サインを発していることに気づき、適切な対応ができるような正しい知識と本人が安心して本心を声に出せるように受け止める姿勢を持っていることが重要です。

文京区の実践

文京区では、ゲートキーパーを養成するための講座が、区民や関心のある方に向けて文京区保健所主催で開催されました。区役所職員向けの養成講座は既に開かれていましたが、広く一般の区民の方に向けて行われたのは、画期的なことです。こうした取り組みを拡充し、身近なことで、大切な人の声を受けとめて、生きていく支援ができるようにしていきます。

遺族支援とつて

また、遺族の声をうけとめ、支援することも大切です。差別や偏見から、死因を自殺と言えない現状があります。遺族同士で安心して気持ちを分かち合える場や支援策を作っていきます。さらに、うつ状態になったとき、安心して見守られるところも実現していきます。



キリトリセン

<アンケート> (該当するものに○をつけて下さい。)

- 回答する方について
 - a. 文京区 在住、在勤、在学、区外
 - b. 性別 男性、女性、その他()
 - c. 年代 ~20代、30代、40代、50代、60代、70代~
- コレクティブハウスについて
 - コレクティブハウスに居住してみたい。
 - 所有している土地をコレクティブハウスために貸したい。/売りたい。
 - コレクティブハウスに興味がある。
- 住宅の温暖化対策について
 - 技術の情報をもっているので協力したい。
 - 関心がある。
- 自由意見(区政に対するご意見等お書きください。)